聖路加同窓会神奈川県支部報告

2021年1月発行

支部長からご挨拶

結城瑛子（旧姓高林）1966卒　1973B卒

皆様、あけましておめでとうございます。
岡部支部長からバトンを受けた結城と申します。よろしくお願いいたします。昨秋の総会は残念ながらコロナにより中止とし、代わりに会員間の交流を深める一助としてニュースレターを発行することにしました。コロナ大流行の中で多くの医療職の方々が身を挺して頑張って下さっています。同窓生の多くの方々も臨床、地域・行政、教育等の各分野で奮闘しておられ、ただただ頭が下がります。聖路加で教育を受けたものとして何ができるかと考えますものの、後期高齢者でハイリスクとなった身では、まずはお世話をかけないようにすることが肝要と、免疫力維持にと日々励んでおります。
現役のみな様、どうかよろしくお願い致します。皆様もどうぞくれぐれもご自愛くださいませ。
そして2021年の総会で再会できますことを心より願っております。

結城瑛子　支部長

コロナ禍ではありますが最近の皆様の近況を伺いました

大竹ひろ子（旧姓伊藤）　1972卒　副支部長
市役所乳幼児健診、介護保険認定審査委員
保健所保健師としての現職を去って10年がたち、ポチポチと市役所仕事の手伝いをしています。そんな生活にもコロナ禍は押し寄せ、健診は中止（現在は再開）、審査会は書面審査となり、近所での買い物以外ほとんど外出をしない生活が続きました。4月初めに人工股関節置換術を受けたことも重なり、動かないと直ちに筋力が落ちてしまうことを痛切に感じています。
学生時代から続けている聖路加チャペルの聖歌隊活動も礼拝自体が中止となり（現在は条件付き再開）、歌うことの危険性もあり半年以上活動休止状態が続いています。現在クリスマスには何とかささやかな奉仕が安全に出来るようにチャペル側と検討を重ねている状態です。
臨床、公衆衛生等コロナ最前線でお仕事をしていらっしゃる同窓生の方々に深く感謝するとともに、健康をお祈りしています。

聖路加のチャペル水戸撮影

水戸優子（旧姓嘉屋）1991卒,1993M,2002D修了　副支部長
神奈川県立保健福祉大学
こんにちは。副支部長を務めます水戸優子です。
学生の頃、無事卒業できるか心配で、いつも聖路加チャペルの十字架を見上げながら「無事卒業できますように！」と祈っておりました。今も、聖路加国際大学に行くと十字架を見上げて感謝の祈りをささげております。
現在は、神奈川県立保健福祉大学におり18年目になります。COVID-19のため、オンラインと対面のハイブリッド授業に追われていますが、結構うまく対応できております。とはいえ、患者中心の看護の大切さを学生にどう伝えるか、奮闘が続きます。
聖路加同窓生の皆様のパワフルさにいつも感心しております。そのお力をどうぞ看護教育に貸してくださいませ。

発行責任者：結城瑛子（支部長）作成：水戸優子（副支部長）

コロナ禍ではありますが最近の皆様の近況を伺いました

中田　かおり（旧姓中込）1991卒,2008M,2019D修了　　神奈川県支部庶務担当

現在、東邦大学看護学部で母性・助産の教員をしています。前期の講義はすべてリモートでした。慣れないパソコン作業で首・肩に負担がかかり、四十肩になりました。不眠にもなり、とても辛かったです。8月からは病院実習が始まり、感染に細心の注意を払っています。学生と一緒ではありますが、産婦さんや褥婦さんのケアをしていてよい方向に向かうと、助産師としての達成感を感じることもしばしばです。最近は教え子が活躍する姿を見て母のような気持ちでうれしく感じています。写真は2020年1月、学会でタイに行ったときのものです。初めて、海外の学会にチャレンジしました。いま思うと、海外に行けたのが夢のようです。また海外に行きたいです。

萩原　綾子（旧姓湯地）1992卒，2001M修了　　神奈川県支部庶務担当

2002年に小児看護専門看護師の認定を受け、神奈川県立こども医療センターに勤務しています。 COVID-19で社会は激変してしまいましたが、子ども達は「ソーシャルディスタンス！！」と新しい言葉を使いこなし、元気に過ごしています。医療現場が切迫した中で、こども医療センターは変わらず小児、周産期医療を提供していけるよう日々努力しています。最近、ルカの卒業生であることに支えられていると感じることが多くなってきました。研修など機会がありましたら、ぜひ、お声かけください。

加藤　葉子（旧姓加藤）1973卒　神奈川県支部会計担当

コロナ禍で日々大変な思いをされていらっしゃる現役の皆様に心から感謝申し上げます。皆様の精神的苦痛・身体的疲労を思いますと何とかこの感染の勢いが収まってくれることを祈るばかりです。聖路加同窓会の役員を数年やった後、実家の介護で神奈川県民となり、縁あって神奈川県支部で会計の仕事をすることになりました。今後も支部の活動のお手伝いができますよう頑張りたいと思っています。

杉山　真理（旧姓村本）1984卒　神奈川県支部会計監査

平塚保健福祉事務所保健予防課で感染症や自殺対策等を担当しています。今はコロナに関した相談、陽性者への疫学調査等に追われる日々です。このところ、また、感染者が増えています。経済活動への影響や家庭内の虐待の問題…自殺者数増加も気になります。「これからの保健所の役割は健康危機管理」と言われ、今、その真価が問われているのだと思います。神奈川モデル（政令市も含め、神奈川県全域がエリアです）では保健師はもちろんですが、対策本部（県庁）では事務職も色々な部署から集められ、まさに総力戦で（ベッド調整なども）取組んでいます。1日も早く収束することを願うのみです。

一杉　かおる（旧姓寺井）1985卒　神奈川県支部会計監査

茅ヶ崎市役所の福祉部で仕事をしながら、庁内保健師の調整役をしています。コロナ禍における市町村業務の継続とともに、保健所設置市であるため、茅ヶ崎市保健所として、管内（茅ヶ崎市と寒川町）のコロナ感染症対応をしており、たいへん多忙な日々です。これまでに経験したことがない社会情勢の中、他県からの応援派遣依頼もあり、庁内外で「保健師」に期待される業務や役割はとても多い！とあらためて感じています。庁内50名の保健師のうち、疲弊している職員も数名おりますので、今を乗り越え、未来へつなげるために尽力していきたいと思います。

発行責任者：結城瑛子（支部長）作成：水戸優子（副支部長）

コロナ禍ではありますが最近の皆様の近況を伺いました

岩間　節子（旧姓小沢）1953卒

ご無沙汰しておりますが皆様にはお元気でご活躍のことと存じます。私は何時の間にか88歳を過ぎ、気持ちは若いつもりでも、足元のフラツキは嫌でも歳を自覚させられています。先日かかりつけの整形外科の先生に「私の足のフラツキは、リュウマチの為ですか、それとも歳のせいですか」と伺ったところ、どちらも否定され、それは運動不足のせいでした。そこで今は、夫の歩行器散歩10分間の後、一人で20分程の散歩を心掛けています。かつて茅ケ崎の「太陽の郷」で老後を送られた、大先輩の金子　光先生が、カシミヤのセイターの胸をブローチで飾り素敵だったことを思い出し、私もあり合わせのブローチをつけて、ちょっとお洒落の気分で散歩しております。

天野　奎子（旧姓 藤垣）　1955卒

コロナ禍の日々、マスク、手洗いは当然のことです。洗った手指を清潔な乾いたタオル・ハンカチで拭くことが大切です。今はペーパータオルもありますので便利です。私が生徒であった頃「個人衛生」の授業がありました。食事、睡眠、その他靴のことまで健康で正しい生活をとの教育でした。きちんと食事をし、眠り、自分の身体を健康に保つことは今のような時には大切なことでしょう。アイソレーションテクニックで高橋先生、吉田時子先生に教え込まれたことを、今帰宅後のマスクの処理にも思わされます。聖ルカはすごい学校でした。92才の夫と87才の私、おいしいご馳走を作って元気に過ごしています。

塚本　惠（旧姓沢田）1962卒

コロナ禍の中でのこの一年は、どなたにとっても大変な年であったと思います。私のように高齢でいろいろな持病を抱えている者にとっては、感染したらきっと死ぬだろうとの恐怖にも似た重い気持ちをかかえての日々。感染防止のための手洗い、マスクはもちろんのこと、なるべく人に会わないように外出を最低限にして、家にとどまる生活が6月まで続きました。日曜日の教会での礼拝はネット配信に、長年続けてきた藤沢福音コールの練習は休止、病院通いも怖くて行けずという具合で、今日が何曜日か定かでない気持ちにもなりました。8月からコーラス練習がZOOMにて開始されて、やっと友人たちとも繋って、新しいチャレンジを楽しんでいます。毎年賛美の奉仕をしてきた藤沢市民クリスマスですが、今年は12月12日（土）4pmからYouTubeにて配信されることになりました。そこでZOOMで歌唱指導を受け、各自が自分のパートを録音して提出し、指揮者がコンピュータで組み立てコーラスに仕上げるという手法です。どんな音色でしょうか。よろしかったらお聞きになって下さいませ。平和な年の訪れと皆様のご健康を心からお祈りいたします。

齋藤　亮子（旧姓神田）1965卒

2020年は年明けからずっと新型コロナとアメリカ大統領選挙の動向を見守って来ました。新型コロナとトランプ氏は世界中を恐怖と混乱に陥れていますから。それにしても、バイデン氏の勇気と情熱と体力には感心しています。彼は私と同じ1942年生まれ。立派な後期高齢者です。私は「高齢者は感染のリスクが高いから」と自粛生活に専念していますが、彼はこれから4年間世界で最も重大な責任を持つアメリカ合衆国の大統領を努める覚悟。凄いと思います。脱帽です。これまであの過酷な舌戦を含め選挙戦を戦っても罹患することなく、「大統領の一日目からきちんと仕事をする」と。私が感嘆していると、息子に「見倣ったらどう？」と言われてしまいました。私のウィズ　コロナ、変わるかもしれません。

秋谷　美貴子（旧姓清水）1966卒

新型コロナウイルスによる感染がなかなか収まらない中、蝶の幼虫を飼い、経験したことです。今まで、キアゲハ、ナミアゲハ、ナガサキアゲハ、クロアゲハ、アオスジアケハを放蝶してきましたが、今回はモンシロチョウです。プランターで種から育てた小松菜の葉に幼虫を見つけて、42匹巣箱で飼って、11匹は無事蛹になりました。後の31匹は、青虫のうちに、腹部の中部から3㎜位の繭のようなものが10個以上出てきて、死にました。巣箱にへばりつくようにして、アオムシサムライコマユバチという寄生する黒い蜂で蝶の後、飛んで行きました。ベランダのハナダイコンにいたスジグロシロチョウの幼虫にはこの寄生虫は出ませんでした。6月17日から20日まで小さな蛹で羽化に失敗せず飛び立ち、晴れ晴れとした気持で見送りました。

発行責任者：結城瑛子（支部長）作成：水戸優子（副支部長）

コロナ禍ではありますが最近の皆様の近況を伺いました

森　明子（旧姓京藤）1980卒，1986M修了

コロナ禍の中での湘南鎌倉医療大学の近況、湘南鎌倉医療大学は“生命(いのち)だけは平等だ”の理念のもと、いつでも、どこでも、誰でもが最善の医療・ケアを受けられる社会の構築を目指し日々研鑽する医療人を育成するため、2020年4月開学しました。現在は看護学部看護学科1年生107名のみの小さな大学ですが、鎌倉から未来へ大きく羽ばたこうとしています。ここ鎌倉は人々の暮らしの歴史と文化が息づき、豊かな自然が学生たちを包み込み、学修には最良の環境です。開学早々、新型コロナウィルス感染症の流行に翻弄されましたが、今は3密を避けつつ対面授業を開始しており、学内を行き来する明るく元気な1年生の姿があります。第3波の到来に対しても荒賀直子学長(class of 1968)とともに学生ファーストの精神でサポートしていきたいと思います。

中村　妙子（旧姓高木）　1982卒

本年3月逗子市役所を定年退職し、再任用で新設されました福祉部社会福祉課地域共生係に配属されました。今年はcovid19に翻弄され続けて事業の見直しの連続でした。そんな中「本当に今必要？」と当たり前だと流していた業務や行動を問い直し優先順位に敏感になる機会になったとも感じています。再任用の立場になった今となって「感染症対策」社会福祉法改正に伴う地域包括システム、重層的体制整備事業（連携による複合的問題への対応）・・と本来の保健師業務への「原点回帰」を感じ聖路加での学び、保健師としての基本の重要性を感じつつ日々を過ごしております。

吉本　幸子（旧姓岩井）1982卒

訪問看護ステーションの管理者となり今年で5年目となります。今回のコロナ禍、まず自分たちが感染しないためにはどうしたらよいかが大きな問題でした。訪問先は疾患や障害を持った小児から高齢者まで、感染した場合重篤になりやすい方々ばかりです。自分たちが感染源にならないために、各自の体調チェック、事務所が密にならないよう時差出勤等、訪問前の利用者・家族等の検温を徹底しました。今は店頭にマスクや消毒液が並んでいますが、緊急事態宣言前後、物品不足は深刻で、ストック数のチェックやフェイスシールド・予防衣を手作りで準備しました。コロナ感染の不安から訪問をお断りになる方もいらっしゃいましたが、むしろ入院では面会できないと在宅を選択される方々も増えてきている印象です。外出する機会が減り人と接することがなくなった高齢者のフレイル問題も浮上してきています。疾病や障害があっても安心して自宅で過ごせるよう、24時間365日をモットーに、日々奮闘しております。

田中　ゆり（旧姓吉村）1984卒

留学生が7割の国立政策研究大学院大学保健管理センターで保健師13年目です。（保健師ジャーナルに掲載されました）COVID-19の影響で、留学生を取り巻く状況も一変しましたが、学校、学生、教職員を守る為に毎日全力投球しています。

出石　珠美（旧姓吉澤）1987卒

一言で表現すると多忙です。横須賀市役所で新型コロナウイルス感染症対策のため2月以降走り続けている印象です。横須賀市は三浦半島に位置し、人口40万人弱、アメリカ海軍基地・自衛隊を抱えている都市のため、学校・保育園・高齢者施設等以外にもクラスターが発生しやすいと認識しています。そのため予防について市民に注意を促していますが、発生した患者対応におわれているのが現実です。対コロナのために組織の再編成をしていますが、焼け石に水。目下のところ、職員が疲弊し心身ともに疲れ切っている状況です。市民のために、何とかこの健康危機状況を乗り越えたいところですが、職員の様子をみると自分の力不足を感じてしまいます。皆様どうぞご自愛ください。

発行責任者：結城瑛子（支部長）作成：水戸優子（副支部長）

コロナ禍ではありますが最近の皆様の近況を伺いました

山田　美穂（旧姓阿部）　1991卒

私は、コロナ禍で東京オリンピックが延期になったことに最も影響を受けました。私がオリンピックのメディカルスタッフに登録していたからです。11月、世界選手権で新オリンピック会場に入り会場内のシミュレーションに参加しました。2月、役割別研修を受け「世界中に放映されているので失敗は許されない」と言われ緊張しながらも気合が入っていました。シフト案も配信され会場別研修を受けるのみ、の状態でした。自国開催のオリンピックで医療関係者として参加できるのは一生に一度のことでしょう。来年実施されるのか不透明ですが、現在、病棟にはスポーツ外傷の患者が多々入院しており、将来のオリンピック選手達に熱いエールを送っています。

若友　真弥（旧姓若狭）1992卒

はじめまして卒業後聖路加国際病院勤務、家族の転勤に伴い、高校保健室勤務、訪問看護等を経て、内科系クリニックについております。コロナ禍の第1波・第2波到来時、勤務先では、様々な不安が原因で、精神不調だけでなく、微熱・頭痛・不眠・動悸や消化器症状等も併発する方の受診が目立ちました。身体症状は軽減するものの精神症状が遷延化し、うつへの移行も多数ありました。第3波の今、患者さんはもとより最前線で対応される皆様も大きなストレスにさらされていることでしょう。この状況を乗り越えるために、感染対策だけでなく心と体のバランスをとる工夫も大切だと思いました。末筆になりますが、皆様と皆様のご家族のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

勝良　泰子（旧姓青山）1997卒，2007MW修了

私は聖路加国際病院産科病棟で働いた後、大学院に進学、妊娠前の健康教育をテーマに選びました。その後出産や夫の転勤でアルバイト生活を送っていましたが、3年前に社会人採用で横浜市の助産師になり現在は横浜市神奈川区役所こども家庭支援課で働いています。大学時代から地域の母子保健に興味があり念願が叶った形です。地域の妊婦さんや家族に対して切れ目のない支援を提供することを目標に、母子手帳面接や、両親教室、母子訪問、健診、母乳相談等の子育て世代包括支援センターとしての業務を主に担当しています。また小中学生への思春期教育や社会的ハイリスク妊婦、特定妊婦に対する支援も地区の担当保健師と共に協力して行っています。

吉田　真由美　2001 卒

富士ゼロックス株式会社にて産業保健師として活動中です。コロナ禍での近況：コロナ禍においての産業保健師の働き方も大きく変化しています。対面で支援することが当たり前であった毎日が画面越しにやり取りし、今までと同じ生産性を見出そうと様々な努力や工夫が現場では考えられているように思います。なにを対面支援とし、何をオンラインで行うのか活動を進めながらの手探りではありますが、支援の質が落ちぬようにまたコロナ対策が疎かにならぬように様々な状況を見据えながら柔軟に計画し支援することは、看護の醍醐味かと感じる日々です。またあらゆる手立て柔軟に活用するためには、新たな知識や技術も必要となります。そのための探求心や学びの心はいつでも持っていたいものだと思いながら日々業務に励んでいます。

深石　純子　2001M修了

このコロナ禍によって、校内のあらゆる活動に養護教諭として意見を求められる機会が増えました。生徒の校内での過ごし方から始まり、各教科の教員からは感染予防に留意した授業方法について等の相談を受け、学校医と連携し、情報提供をしています。コロナウイルスという見えない敵を相手に、前例がないことから「ある程度の計画性」と「瞬発力」が要求されていると実感する日々です。オンラインによる検温結果報告、入校時の顔認証検温・手指の消毒から始まり、昼食時間は前を向いて会話せず、常時マスク着用・・・。昨年までの学校生活とガラっと変わった日常ですが、生徒達はその変化を受け入れ、規制の多い学校生活に文句も言わず過ごしています。何年後かに「コロナの時は大変だったね」と話せる日が来る事を願っています。

発行責任者：結城瑛子（支部長）作成：水戸優子（副支部長）

コロナ禍ではありますが最近の皆様の近況を伺いました

砂川　昌子　2002卒，2011M修了

都内の女子大の保健室で保健師として勤務しています。現在は、学内での学生健診が中止となったため、その事後処理や学内の環境整備(消毒や換気など)の対応に追われています。後期も大学の授業は一部の対面授業を除いて、ほぼオンラインとなっています。学生も教員も構内にはいない状況ですので、保健室でも校医(産業医)・精神科相談医と学生・教職員とのオンライン面談が出来るように体制を整えているところです。コロナ禍が過ぎ去っても、健康診断や保健指導といった通常の保健室業務も今までと同じという訳にはいかないと思っています。大学の保健管理の在り方について、検討していかなければならないと実感しているところです。

秋葉　和秀　2008卒

新卒から神奈川県立こども医療センターに勤務し現在は感染管理認定看護師として感染制御室という部署で働き3年目となります。今年は正しい手指衛生や個人防護具の正しい着脱方法など、全国の感染管理者が今まで口酸っぱく言っていたことが改めて注目された年だったと感じています。そして、わかっている感染症は氷山の一角で、未検査・偽陰性・未知の感染症に対応するためには標準予防策の徹底が重要であるという教科書で習っていたことに「ほんとうにその通りだった！」と改めて実感しています。大変厳しい状況ですが、みんなでこの苦難を乗り越えていきましょう。SARS-CoV-2は標準予防策をどれだけ正しく実施しているか、医療従事者に試練を与えているのだと思っています。

竹内　翔子（旧姓若井）　2012M,2015D修了

私は現在大学で母性看護学の講義や実習を担当しています。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、前期の講義・演習・実習はすべてオンラインとなりましたが、後期から感染対策を強化した上で臨地実習が再開しました。私が担当する母性看護学実習でも、9月からZoomによるオンライン実習を組み合わせながら臨床での実習を行いました。例年と異なる実習形態にはなりましたが、分娩見学を通して感じる命の尊さや昼夜問わず授乳をする母親の強さ、そして新生児の可愛さなど、実際に臨床でしか学べないこと、体験できないことが多くあり、学生がキラキラした目で実習に取り組んでいる姿を見ていると、臨床で実習する重要性を改めて感じます。

松石　健太郎　2018卒

今年度から長野県の大学で働き始めました。教員が初めてであり、また赴任からすぐにオンライン授業となり変化の大きい春でした。しかししばらく経つと対面での授業もできるようになり、今年度の冬がどうなるかわかりませんが、学生の不安を小さくできるように取り組みたいと思っております。

実家は神奈川なので、長野に来て最初は山の近さ、また近くを歩いていると坂がなく遠くまで見えることに驚きました。またこちらは穀物がおいしく、おやきという小麦粉やそば粉から作った生地になすや野沢菜を入れた食べ物があるのですが、スーパーで普通に販売をされています。また各家庭ごとに好みの店があり、地域性を感じました。

神奈川県支部に参加しませんか！

神奈川県在住・在勤等の方はどなたでも入会できます。年会費無料です。楽しく情報交換・交流・親睦が深められます。 是非ご入会ください。入会希望者は、右のQRコードの申し込みフォームに記入していただくか、FAXにて①氏名（旧姓）、②卒業年、③連絡先電話かEメールアドレスをお知らせください。FAX番号：046-828-2647（神奈川県立保健福祉大学A669研究室事務担当）　ご連絡をお待ちしております。

神奈川県支部入会
申し込みフォーム

発行責任者：結城瑛子（支部長）作成：水戸優子（副支部長）